

浅井町 ふれあいたより



7月号

重点施策 「安全で安心なまちづくりと子どもたちの健全育成」 発行日 令和2年7月1日
発行者 浅井町地域づくり協議会 一宮市浅井町前野字郷西 85 (浅井町出張所内)
ホームページ 138azai.org(検索「浅井町地域づくり」)

スタートラインを引き直して

一宮市立浅井北小学校 校長 太田 暢子

浅井北小学校は、本年度 33 名の新入生を迎え、児童数 314 名 (13 学級)、教職員数 29 名でスタートしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月7日の1日のみの登校で、学校は臨時休校となってしまいました。先の見えない状況の中、子どもたちに「つながっているよ」「大丈夫だよ」というメッセージを何とか届けたいと考え、学年だよりやウェブサイトを通して、子どもたちに可能な限り発信をしていくこととしました。

その一方で、学校が再開した場合に備えての準備や対応について協議を行いました。協議を通して、私たち職員は今まで行ってきた教育活動の目的は何か、子どもの思いを大切に、育てるということはどういうことなのか原点に立ち返り、考えることとなりました。感染防止のため、指導をしなければならないことはたくさんあります。でも、それを子どもが本当に納得しなければ押しつけになり、主体的な行動へとつながりません。そこで、まず職員が指導の目的をはっきりとさせ、児童に納得できる形で示していくことを大切にしながら、5月26日からの分散登校を第2の始業式、新しいスタートラインと位置づけ、準備を進めていきました。



分散登校の日には、保護者の方が集合場所まで送ってくださったり、見守り隊の皆様が挨拶や声かけをしながら、子どもたちの登下校を支えてくださいました。見守り隊の方からは「子どもたちが登校するというだけで涙が出るね」「1日1日、登校が続くようになっていきたいね」

と温かな声をいただき、学校は浅井町の皆さんの支えがあったのもであると改めて感謝の思いを強くいたしました。学校では、久しぶりの学校生活に緊張しながらも、期待をはずませて登校した子どもたち、それぞれの思いが垣間見られました。

距離を保ちながらも友達と笑顔を交わし、担任の指導を受けながら、一生懸命手洗いの練習をする子どもたちの姿を見て、学校生活に対する子どもの期待や願いを大切に育て、児童一人ひとりの生きる力を伸ばしていきたいと思いました。

「大人は経験の中で生き、子どもは未来を生きる」という言葉があります。私たち大人にとって今回のコロナ感染症の流行は、経験だけでは太刀打ちできない事態となっています。だからこそ、子どもとともにスタートラインを引き直し、同じ未来を生きる伴走者であることを自覚して、教育活動を考えていきたいと思えます。今年度の教育目標「一人一人の笑顔が輝く学校」の実現をめざし、地域の皆様のご理解・ご協力をいただきながら、進めていきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。



「買い物バス」紹介(2)

新しい生活様式が始まり、日常生活の中で3密を避けることが求められています。

新型コロナウイルス感染予防で買い物にも行けない方が増えています。少しでも高齢者の日常生活を支援するため、浅井町では「買い物バス」が運行されています。前回の長田、黒岩町内に引き続き今回は、河田、桜の里、そして東尾関町内会で行われている「買い物バス」について紹介します。

ぐるっとバス いわと 河田・桜の里 河田、桜の里では、毎週木曜日の午後買い物支援事業を行っています。河田サロン「ああだ こうだ」に参加されていた方々の声でこの買い物支援事業は誕生しました。現在、河田は18名、桜の里は5名の方が登録されていて、実際に利用される方は11名ほどです。5月14日は17名の方が2台のバスに分かれ、カネスエ浅井店へお買い物に行きました。バスを待つ間、どの方も和やかにおしゃべりを楽しまれました。このおしゃべりも買い物をするときの楽しみの1つだと利用者の方が教えてくれました。ご夫婦で免許証を返納したので、このバスはありがたいとおっしゃって見えました。

東尾関ふれあいショッピング(アウン) 東尾関ふれあいショッピングは、高齢者で日常の買い物に不便を感じている人のお手伝いをする為に、【主催】東尾関町内会【協力】老人保健施設アウン【支援】包括支援センターアウン・一宮市社会福祉協議会のご協力と、民生委員さんからの要望もあり令和2年4月1日より、毎週水曜日「カネスエ浅井店」までの運行を始めました。現在の参加者は10名ほどですが、皆さんに喜んで頂いています。



バス待ちのおしゃべり(河田)



さあ、お買い物!(河田)



買い物を積み込み帰宅(東尾関)

春の叙勲、浅井町から2名受章される

4月29日春の叙勲が発表され、浅井町から2名が瑞宝単光章を受章されました。企画広報部会でインタビューを行いましたので、紹介させていただきます。

・みづほ保育園の林紋子園長先生は長年にわたり地域の児童福祉に貢献された功績により受章されました。昭和22年に創設された歴史ある保育園ですが、これまでの卒園生は3,000名を超え、現在も乳幼児合わせて238名の園児が在籍しています。林先生の基本理念は「心身ともにたくましく、よくあそぶ子ども」で、モットーはお母さんより優しく園児に接することとのこと。一番嬉しいことは、卒園生の子どもさんが入園されることであると、にこやかに話されました。



・この度、長年にわたり看護師として活躍された藤田由加里さんが看護業務功労として受章。子どもの頃に読んだ本がきっかけとなり、看護師をめざしました。「患者さん第一」を心掛け、日々努力されました。患者さんのケアは勿論、患者さんや家族と医師とのパイプ役として、また「安心・安全」な職場環境づくりにも心配りをしながら、一大プロジェクトとなった病院の移転と、業務IT化にも対応するなど、気の休まることのない毎日でした。元気になった患者さんを見るのが一番うれしい、家族の支えにも感謝を伝えたい、とおっしゃっていました。ご両人とも誠におめでとうございます。